



新しい時代の問題、マーケティングを使って解決します！

オクムラ経営コンサルティングオフィス ニュースレター

Ver.4 第85号

「基礎からわかる論文の書き方」を読みました！



皆さん、お元気でしょうか。6月25日には群馬県伊勢崎市で40.2度を記録。6月に40度超えたのは観測史上初めてらしいです。日本の気候、温帯ではなくて亜熱帯に変えたほうがいいですね(笑)。欲しくなくてもこまめに水分を補給して、熱中症にご注意ください。さて、今回ご紹介するのは「基礎からわかる論文の書き方 (講談社、¥1,320、小熊英二著)」です。

Amazonで本を探している時、偶然見つけたのが本書です。「学問には型がある」というキャッチコピーに惹かれ、徐々に衝動買いしました(笑)。ちなみに、キャッチコピーの「学問」という言葉を別のキーワードに置き換えれば、いろいろ使えると思います。試してみてください。

本書は、大学の先生と学生が問答する形式で書かれています。論文のテーマの見つけた方、調査のやり方、そして執筆等、分かりやすく説明しています。過去、文章の書き方関連の本は、何冊も買って読みました。しかし、複雑な言い回しで、何を言いたいのか分からないモノも多かったです(苦笑)。本書は分かりやすいので、高校生や大学生でも理解できます。さらに、大学や大学院に通っている社会人にもピッタリです。

まず、論文の「型」を解説。「論文というのは、相手を論証で説得する技法から、発達したものといえます。その技法として、①主題提起、②論証、③主題の再確認、という構成があることが、古代ギリシャから唱えられていました。そしてその構成が、現代アメリカでは、序論・本論・結論から成る「エッセイ」の型式として教えられています。これは、①自分の主張を述べ、②論拠を示して論証し、③自分の主張の妥当性を確認する、ということを行う型式だといえます。(P53~P54)」勿論、上記以外の論文の「型」も掲載されています。

論文は「科学的」であることが重要です。自然科学はもとより社会科学、政治の世界である政策科学など、多岐にわたります。その科学について、著者は短い文章でこのように表現しています「つまり実証的な科学というのは、『論理体系がどれだけ見事にできているか』よりも、『現実をどれだけ説明できるか』を重んじるところから発達した、と考えるとよいでしょう。(P225)」なるほど、よくわかりますね。

中世において、天動説から地動説にパラダイム転換しました。天体運行について、天動説では説明できないところを、地動説なら説明できる。ニュートン物理学では説明できない部分が、相対性理論であれば説明できる。そんなイメージですね。やがて天才が現れて、相対性理論を超える理論が発表されるかもしれません(笑)。

論文を書く機会は、今のところありません(笑)。ただ、仕事上の文章を書くときに使えそうなところがありましたので、活用してみます。新書版としてはチョット高めですが、475ページというボリュームなので納得です(笑)。汗ばむ季節ですが、本書を読んで脳内でも汗をかいてスッキリさせましょう(笑)！

オクムラ経営コンサルティングオフィス ニュースレター編集部

発行人 奥村政治

〒571-0047 大阪府門真市栄町6番9号 門真プラザ610号

発行日 2022年7月1日

TEL06-6991-9627

Email: info@1project-support.com

https://1project-support.com

Copyright 2022 オクムラ経営コンサルティングオフィス all rights reserved